

『認知症サポーターを知っていますか？』

朗読者 有森 裕子

01

社会的な問題としてクローズアップされている認知症、それを支える活動についてご紹介します。

10

私は岡山の出身で、母は長年地元の社会福祉施設で事務の仕事をしていました。私は物心ついた頃から毎年、時々その地域のお祭りやイベントに参加し、障がいのある人たちと交流して、一緒に楽しみました。

そして、高齢者や地域の人たちとも一緒に暮らすことがごく自然な環境で育ちました。みんなで支えていくという意識は自然に根付いていたように思います。

15

今、日本では認知症の人が急増しています。

20

認知症の人やその家族の応援者である「認知症サポーター」をご存知でしょうか。平成十七年（二〇〇五年）に認知症サポーター養成講座がスタートし、今では全国に九百万人を超えるサポーターがいます。

この養成講座は福岡市各区の保健福祉センターや公民館などでも定期的に開かれていて、企業や学校で受けるところも増えているそうです。受講者にはオレンジリングが渡されます。

子どもたちの間にもサポーターが広がっています。小学生のサポーターが約八十万人もいるなんて、うれしいですね。体験や経験を通し、知識を持つことで、子どもたちも変わっていきます。

養成講座を受けて、自分にとって遠い存在だと思っていた認知症が、自分自身の問題だと感じられるようになったという声もあります。認知症の高齢者からは、近所の人たちの支えがあると、思うだけで、とても心強く、不安な心がずっと穏やかになったという声が聞かれました。

不便さ、不自由さは、みんな持っていることです。みんなが誰かのパートナーとなって、一緒に生きていくことが大事だと思います。認知症サポーターの活動がこれからさらに広がり、みんなが高齢者を支え、住みやすい社会を作っていけることを願っています。